

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「みんなながやけ 洋三の子」～認め合い 高め合い すずんで未来をつくる子を育てます～
興味・関心をもって、課題解決に主体的に取り組む子を育てます。(知)
自分と周りの人を大切にし、思いやりの心をもって行動する子を育てます。(徳)
健康や安全に関心をもち、自分や人の命を大切にすることを育てます。(体)
夢や希望をもつとともに、まちや地域の一員として行動する子を育てます。(公)
社会への視野を広げ、よさや違いを認め、ともに生きる子を育てます(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

自分づくりに関する力
【自己肯定感】
【コミュニケーション】
【まちを愛する態度・社会参画】

具体化した資質・能力

自分や相手を大切にしようとする心
自分の思いを伝える力
自ら問いを見出し、解決する力

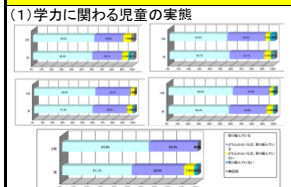
中期取組目標

○様々な教育活動を通して、自他を大切にし、互いを認め合い、ともに高め合おうとする心情や態度を育てます。
・自ら課題を見つけ、学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進します。
・互いを認め合い、協働して課題解決に取り組むことができる学習活動を行います。
・子どもの思いや考えを大切にし、表現する力や伝え合う力を育てます。
・まちの人とかかわる経験や体験的な活動を通して、豊かな学びと心を育みます。
・一人ひとりが安心して学校生活を楽しみ、自尊感情を高められるようにします。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (授業改善), 具体的取組 (粘り強く取り組むことや学習の調整をする力を伸ばすために、教材研究を重ね、より子どもたちが興味関心をもって学習に取り組むことができるようにしていく。生活・総合の重点研究を通して、自ら課題を見つけ、解決に向けた意欲的な取り組みができる姿を見られるようにしていく。)

学力向上に関わる本校の状況



学校での学習に進んで取り組んでいるかという項目に置いて、各学年「取り組んでいる」という回答が、市の平均に比べても高いことが分かる。このことから、本校の児童は学習に対して、意欲的に取り組もうとしていることがうかがえる。
それに対して正答率の分布も比較的高いが、様々な場面において、自分の考えに自信をもって相手に伝えることに課題が残っている。

(2)これまでの学校の取組状況
各学年で取り組んでいる少人数指導や、教科担任での指導を工夫して行うことで、意欲の継続や個に応じた指導をしてきた。重点研究を通して、児童一人ひとりが課題を見つけるといった点を意識して進めてきた。

今年度の目標

児童一人ひとりが自分で課題を見つけ、意欲的に粘り強く課題に取り組もうとすることで、学びの基礎基本や知識・技能を身に付け、それらを活用して思考・判断・表現ができるようにしていく。

目標を実現するための具体的行動プラン

子どもたちが、様々なことに意欲的に取り組み、興味関心をもち、粘り強く学習に取り組むとすることができるように、教師が教材研究を綿密に行い、教員同士で指導力を高める。
児童一人ひとりが自ら課題を見つけ、解決に向けて意欲的に取り組むための手立てを教師が重点研究などを通して学び、身に付けることができるようにしていく。

自分の考えを自信をもって表現できるように、子ども同士が認め合える場づくりをしていく。

重点研究を通して、子どもたちが課題を見つけ、解決に向けて意欲的に取り組もうとするための手立てを模索し、それを各学年・学級に活かしていく。また、重点研究以外でも、教員同士が授業を見合い、意見を交わすことで、学習に粘り強く取り組んでいけるようにしていく。

重点研究を繰り返す中で見えてくる新たな課題に対して、講師の助言を元に、教員同士が解決の方向を見つけていく。

学びの中で身に付けた基礎基本や知識・技能を活用して、思考・判断・表現の力を高めていけるように、考える場面を増やし、表現できるようにしていく。

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (道徳教育), 具体的取組 (学校や地域での様々な場面を通して、気持ちのよい挨拶ができるよう、声をかけていく。また、他者と共によりよく生活することができるよう、相手の立場や気持ちを思いやって行動できる児童の育成を図る。)

豊かな心に関わる本校の状況

・明るく素直な児童が多く、人と前向きにかかわろうとする姿が多く、場面で見られる。進んで挨拶をしたり、学年を超えて声をかけ合ったりしている。
・本校の児童は、素直で穏やかな児童が多いが、協調性を大切にすることが多く、主体的に行動する力強さにかける児童が多い。みなと同じでない不安という気持ちが自尊感情を下げることに繋がっている様子がある。

今年度の目標

子どもたちが自己肯定感を高め、自分や相手を大切にしようとする心を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

①道徳教育の充実
・授業の中で、一人一人が自分の思いや考えを伝え合うことができることを目指し、誰もが安心して話せる学級づくりに取り組む。
・実感を把握し、教科書や道徳教材を活用し、道徳的価値を理解することができるように、発問構成を工夫する。
・学年研やブロック研で、道徳の授業について子どもの姿をもとに話し、互いの授業を高めていけるようにする。

②交流活動の充実
・ケヤバ活動(たてわり活動)では、その活動で目指す子どもの姿を教員間で共有し、子どもたちが異年齢でのつながる良さを感じることができるようにする。
・様々な活動を通して、自他の違いやよさに気づき、相手の立場に立って考えることができるようにする。

①道徳教育の充実
・授業の中で、子どもが自分の思いや考えを本音で語り合うことを目指し、互いを理解することで、自分も周りに大切にしようとする気持ちをもつことができるようにする。
・理解した価値をもとに、自分を見つめ、相手の気持ちに共感しながら語り合う授業を目指し、自分の考えを広げることができるようにする。
・学年研やブロック研で、道徳の授業について子どもの姿をもとに話し、互いの授業を高めていけるようにする。

②交流活動の充実
・ケヤバ活動(たてわり活動)では、その活動で目指す子どもの姿を教員間で共有し、子どもたちが異年齢でのつながる良さを感じながら、学校全体で仲間意識をもてるようにする。
・様々な活動を通して、自他の違いやよさを大切に、相手の立場に立って行動することができるようにする。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健康教育), 具体的取組 (体育や保健、児童会活動等で身体を動かす機会を設け、体力の向上や運動が好きな子どもを育てる。また、近年視力が低下した児童が目立つことから、家庭と連携を図り、メディアとの付き合い方や生活習慣の見直しなど学校保健委員会等で取り組む機会を設ける。)

健やかな体に関わる本校の状況

・朝食の摂取率が、学年によってばらつきがある。昨年度よりはパーセンテージが上がっている。
・地域に外遊びができる空間は広い公園がいくつかあるものの、曇りや暑い事に通っている子どもも多く、1日の運動時間や1週間の運動日数は、市の平均とほぼ同程度である。(令和4年度)
・家庭の事情から毎朝時間通りに登校できない児童が数名いる。そのため、担任をはじめ児童支援専任教諭や養護教諭、職員室の保健職員が連絡等の対応をしている。
・コロナ禍での運動不足、外に出る機会の現象が原因なのが多いが、児童の視力の低下が進んでいる。(令和3年度から)
・保健室には低学年が多い(入室する。保健室や別室で過ごす時間が長い児童がいる。
・たてわりグループや学級単位で長縄跳び(に)に取り組んでいる。多くの回数を跳ぶことをあてにしてながら、周りの友だちと楽しく活動することができている。

今年度の目標

心身を健康に保つための自分にできることを見付け、実際に行動できるようにしていく。

目標を実現するための具体的行動プラン

・体を動かそう集会を設け、その集会に向けて学級ごとに記録をめざし長縄跳び等のスキルアップを図る。個々が運動により親しむことができるように、カードを工夫するなどして短縄にも取り組む。
・よりよい生活習慣が身につくよう学校保健委員会の活動を充実させる。全校児童が運動に親しんでいるよう児童委員会の活動を充実させる。
・体育科のカリキュラムを全学年である程度揃え、児童が休み時間になどに取り組みやすい環境を整える。
・手洗いうがいを徹底していくために、休み時間が終わったタイミングで「手洗いの歌」を放送して流し、正しい手洗いをできるようにする。
・体育科のカリキュラムの最初に「手洗いうがいの仕方」を設定し、全校児童が意識を高めて生活できるようにする。

・春の運動会実施へ向けて、外で体を動かす習慣をつける。
・令和3年度までの重点研究で取り組んだ体育科の実践を生かして、「児童が「またやりたい」と思えるような単元構想を学年、ブロックで考えていく。

体力の概要と要因分析(小学校は全校配付の体力・運動能力調査分析シートを活用)
・全体的に平均をやや上回っているが、上体起こし50m走において低学年ほど全国平均や市の平均を下回っている。1年から筋力や体の俊敏性を伸ばすような運動を取り入れていく必要がある。また、走力においては、1週間の総運動時間が少ないことでもあるため、外遊びで、鬼遊びなどの走る活動を通して、瞬発力を高める必要があると考えられる。(令和4年度)

・また、20mジャンプランや反復横とびでは、全国平均や市の平均を上回っている。体育の授業や遊び、深い事等の運動経験が持久力の向上につながっているものと思われる。(令和4年度)